

# 姉妹町村盟約締結30周年記念訪問団 沖縄県北中城村で交流し理解深める



北中城村喜舎場青年会の皆さんによるエイサー演舞

11月8日、姉妹町村盟約締結30周年を記念し、沖縄県北中城村の村立中央公民館で記念祝賀会が開催されました。

町は祝賀会への参加と同村の理解を深め、さらなる交流と連携の弾みにすることを目的に訪問者を募集。参加を申し込んだ町民7人を含む20人が11月7日から10日の4日間の日程で同村を訪れました。

記念祝賀会では、祝宴の幕開けとして琉球舞踊「かぎやで風」が披露され、新垣邦男北中城村長が「文化も生活習慣も気候も全く違いますが、お互いの熱い気持ちは変わりません。つながりを大事にし、将来に向けて絆を深めていきたいと思います」とあいさつ。続いて鈴木重男町長が「平成元年8月24日の盟約締結から途切れることなく交流が続いていることに感謝します。次の時代を担う若者が育つ交流を続けてきた思いを受け継ぎ、さらに発展させ、

つないでいきましょう」と述べました。

その後、名幸利積同村議会議長の音頭で乾杯。参加者たちは和やかな雰囲気の中、交流を深めさらなる友好を誓いました。

また、同村喜舎場青年会の皆さんによる「エイサー」では、人事交流職員として同村を訪れていた本町の岩下太祥主事が登場。威勢のいい演舞を披露し、出席者たちを驚かせました。

最後は、会場全員で「カチャーシー」を手踊り。訪問団の皆さんは、沖縄の伝統的な祝いの場に触れ、文化の違いを肌で感じたようでした。



さらなる友好と交流を誓い握手を交わす鈴木重男町長と新垣邦男村長

## 北中城村訪問団に参加して…

昭和60年8月に北中城村の安谷屋ライオンズ少年野球チームが来町して以来、交流が続いています。今回、8年ぶりに同村を訪れ、懐かしい顔にたくさん会うことができました。気候も気持ちもあたたかい沖縄の皆さんと、民間的なつながりができれば、今まで以上に交流が盛んになると思います。



つぎお 田向 次雄さん (71歳・田子)



「かぎやで風」の演舞団団員ながらの沖縄生活を伝える中村家住宅を見学する参加者

# 令和元年度町勢功労者

令和元年度の町勢功労者表彰式は11月15日、グリーンテージで行われ、地方自治の分野で町の発展に貢献された鈴木努さんに功労賞が贈られました。

また、町道茶屋場田子線の開通式の際、町の発展に向け多額の寄付をされた秋山照明さん（一戸町）に感謝状が贈られました。秋山さんは平成29年6月にも「かつぎ桶太鼓」30張りを寄贈しており、寄贈された太鼓は同線開通式の流し踊りなど、さまざま場面で活用され、まちのにぎわいを

## 功績たたえ栄えある受賞

### 感謝状



秋山 照明さん (一戸町)

創出しています。鈴木重男町長は「今後も町づくりに対して、高い見地からご指導くださるようお願いいたします」とあいさつ。鈴木努さんが「受賞を契機に、今後も町の発展のためにご協力させていただきたいと思っております」と謝辞を述べました。

## 地方自治



鈴木 努さん (66歳・小屋瀬)

平成6年8月から平成18年8月まで葛巻町農業委員会委員として、平成18年8月から平成27年8月までの3期9年間にわたり、同会長として町の農地行政の推進に貢献されました。この間、遊休農地解消や後継者対策などに積極的に取り組まれました。

# ～ぶどうの原種～山ぶどうシンポジウム 初開催で活気溢れる情報交換

（株）岩手くずまきワイン主催の「くずまきぶどうの原種山ぶどうシンポジウム」は10月26日、グリーンテージで開催され、町内外からヤマブドウの生産者やワインを醸造している人などが参加しました。

オープニングは、葛巻保育園の園児によるバイオリンとオカリナ教室の皆さんによるオカリナ演奏が行われ、優しい音色で会場を盛り上げました。

鈴木重男町長は「シンポジウムの開催をきっかけに多くの経験と実績を積んだヤマブドウの関係者が、今後深く連携をする時代になればと願います」とあいさつ。昭和54年に山菜やキノコなどの特用林産の振興を目的に町のワインへの取り組みが始まったことやこれまで経緯などが話され、参加者たちは「くずまきワイン」への取り組みが農業ではなく林業からスタートしたことに興味深げに耳を傾けていました。

**活気溢れる情報交換 互いの取り組み注目**

講演では、「日本のワインを愛する会」の会長などを務める俳優の辰巳琢郎さん



参加者とヤマブドウについて語り合う辰巳琢郎さん

んがステージに登場。（株）岩手くずまきワインのスタッフらと対話をしながらヤマブドウやワインの魅力について語りました。

また、会場を訪れた人たちからは、それぞれのワイナリーや生産者の取り組みなどが発表され、ヤマブドウの酸味の良さを広めたい、北東北で品評会を開催してほしいかなど、活気溢れる情報交換の場になっていました。